

理念 ● 地域に根ざした地域の為の医療と福祉

基本方針

- 慢性疾患病棟のすべての機能を自宅と街に持ち込む自宅の病床化を目指します。
- 自宅の病床化を支えるための循環器を中心とした24時間365日体制の急性期医療と内科を中心とした専門医療を行います。
- できるだけ御自分で生活していただく為の早期からの徹底したリハビリテーションを実施します。
- 高齢化社会に対応するため、糖尿病をはじめとする慢性疾患の管理及び健康の自己管理の啓蒙を行います。
- 患者及び家族の方の立場に立って、当法人の行えるあらゆるサービスを提示し選択していただきます。
- 患者及び家族の方の権利を十分に尊重し、説明と納得による信頼される医療を心がけます。



医療法人 陽心会 発行 大道中央病院 発行人:高良 健
那覇市大道127番地 TEL(098)886-0007 FAX(098)886-6967

たかま〜み

通信
Vol.7

地域とともに、地域に支えられながら、地域のために生きる 陽心会



デイゴ/沖縄の県花として咲き誇るデイゴ。原産はインドで、沖縄が北限の高木落葉樹です。沖縄県の伝統工芸品である琉球漆器の原材料に使用されます。真っ赤で燃えるような美しさが暑い夏の到来をつげます。

● 講演会

平成十五年二月十日(月)午後七時よりザ・ナハテラスで一健康日本二十一の現状と今後の展望という演題で社会福祉・医療事業団理事の下田智久氏による講演会がありました。司会は東邦大学医学部医学博士の古田榮敬氏、琉球大学第二内科による主催、当陽心会の共催でおこなわれました。医療・福祉関係者をはじめ、一般の方々も多く集まり、九十三人の参加者がありました。

● 芸術療法による痴呆症予防

アートセラピーのための勉強会

平成十五年二月十四日(金)午後三時から、芸術療法による痴呆症予防(アートセラピー)のための勉強会とアートセラピーの実演が沖縄ではじめて老人保健施設やらぎの里でおこなわれました。主催は臨床美術協会、共催・芸術造形研究所、協賛は当陽心会がおこなっていました。

「芸術は人の心を癒す・臨床美術とは」の題で芸術造形研究所長・金子健二氏が講演しました。その後、セラピーの専門家の指導のもと、施設の老人が参加し、思い思いの絵を描いてもらうアートセラピーの実演がありました。参加者は色とりどりの絵を描き、思いをことばで説明しました。

アートセラピーは高齢者が創造表現を楽しみながら、感情や知覚をつかさどる右脳を刺激して左脳や前頭葉も活性化することを目的としています。

●糖尿病という病気

糖尿病という病気は、血液のブドウ糖が正常値より高くなることです。また、この病気は合併症の病気ともいえます。血糖が高いとばい菌に弱くなり、他の病気を引き起こしやすくなりますし、高血圧も起こってくるのです。

血液のブドウ糖が正常値より高くなると、全身の血管に異常が起こってきます。目や神経、腎臓の小さな血管の異常、頭とか心臓の太い血管の異常、動脈硬化などですね。目を起こると失明、腎臓に起こるとおしっこがでない腎不全、神経におこるとしびれるなどの症状があらわれます。

●糖尿病の原因はなんですか？

すい臓から分泌されるインスリンというホルモンが出なくなったり、効きが悪くなったりすると、糖尿病がおこります。インスリンは血液糖分調整をするホルモンなんです。このホルモンが出ない、効かないということになり、ブドウ糖とのバランスが悪くなるんです。そうすると、ブドウ糖の値が正常より高くなり、糖尿病ということになってしまっんですね。

インスリンが効かなくなる原因は、遺伝的なもの、運動不足、ストレス、高脂肪・高た

糖尿病について

大道中央病院副院長

小宮 一郎



診察・診断



栄養指導



運動指導



服薬指導



んばく、栄養過多などでおこってきます。かつて、日本人にそう多い病気ではなかったのですが生活が豊かになり患者さんが増えた病気です。まさに生活習慣病の代表的なものだといえます。

糖尿病を簡単にいうと二種類あり、ひとつは1型と呼ばれるもので、インスリンがでなくなり、もう一つは2型でインスリンが出たり、出なかつたりします。1型は日本人には少なく、現代日本人の多くが2型です。

1型ですと、インスリンを投与すればいいのですが、2型は出たり、出なかつたりです。から、その原因を直して正常に出るようにしなくてはなりません。薬だけではできないのです。病気としては1型より、2型の方が軽いのですが、治療が複雑で、生活面にまで踏み込まなくてはいけなくなつてきます。大体が日々の生活全般の改善が必要となつてくるからです。

●糖尿病の予防のありかた

答えは簡単です、糖尿病の原因となつていていること、ものを取り除けばいいわけです。遺伝的なものはそれなりの対処をし、適度な運動、ストレスをためず、バランスのよい食事をする事です。しかし、それは「言うや易し、されど行い難し」なのです。基本は三

つです。三食を規則正しい時間に食べる事です。夕食はやや少なめに取る事です。ごはんやパン類をきちんと食べ、肉や魚を少なめに、野菜類を多くいただくこと。それから運動は週三回くらい三十分程度のもので無理のない程度に行うこと。それからストレスを受けてもうまく解消することですね。

当院にくる患者さんは年配の方が多いですが最近はいくつ代くらいの方もいます。診察・検査をして、栄養士、理学療法士などと連携をとって、その方の病状や生活にあった食事指導、運動指導、服薬指導などもおこなっています。

院内で可能な限りの連携をとり、従来の治療のほかに、糖尿病という病気を治すために、患者さんの生活習慣の改善の指導とケアをしています。それが当院にある内分沁センターです。また、三心会といって、月に一度、こちらで治療を受けた方々が集って、お互いを励まし、勉強していく会などもあります。自分の病気や現状と向き合い、学習して、一緒に改善をしていきたいと思います。

Medical トーク&トーク



診療部栄養科・管理栄養士
大城千恵子さん
(後列向かって左側)

私が所属する診療部栄養科は総括が一人、入院患者や通院に二人、サテライトに一人合計四人でおこなっています。私達栄養士は、入院患者のそれぞれの症状などにあわせて食事のメニューを考えたり、栄養指導をしたり、ヘルシーラウンジではヘルシーメニューの見本を出しています。また、昨年オープンした内分泌センターのチームの一員として、糖尿病の患者さんに栄養指導をおこなっています。内分泌センターは医師、看護師、理学療法士、栄養士などがチームを組み、医師をリーダーとしてチーム医療を行っているところです。

私達は、検査値に基づいた栄養指導を行っています。患者さんと正面から向かい合い、カウンセリングをします。最初は一時間くらいいろいろ伺います。現状を把握し、患者さんが「自分の食事をかえよう」と強く思ってくれるまでおこなっています。患者さんそれぞれ生活環境が違いますので一人暮らしの方、夫婦でいらっしゃる方などその方の生活環境の中での食事のバランスのとおり方をアドバイスしていきます。食事を改善し、実行していくと三ヶ月程で患者さんに何らかの形で結果が表れてきます。

現在、いろいろな食品が出回っているのですが、知識も十分に把握し、今後とも栄養士自らも自己啓発し、研鑽をしていかなければいけないと思っています。

部署紹介

■ 糖尿病内分泌センター



糖尿病内分泌センターは糖尿病を中心に甲状腺などのホルモン疾患などの専門的な診療をおこなっています。早期診断と個々の患者さんに合った適切な治療をおこなうことにより、心臓や脳血管の病気の発症予防や、糖尿病に特有な合併症（腎臓、眼、神経）の予防を行うおつと務めています。

甲状腺の病気は適切な診断や治療を怠れば、生活の質の低下ばかりでなく、心臓や骨粗しょう症を誘発します。

当センターでは「慢性疾患を急性化させない」という理念のもとに、日常診療をおこなっています。

また、多くの医療施設では、専門外来診療日に限られており、十分な診察を受けられていないのが現状です。しかし、当センターは毎日専門外来を開設していますので、患者さんの生活ペースに合わせた診療をおこなっているのも特徴のひとつです。

専門医による診察・診断で管理栄養士による栄養指導、また運動指導、服薬指導など生活習慣病などに対する個々の患者さんに合った生活管理支援を連携し、総合的にこなっています。

小宮副院長のもと、新川先生、看護師、栄養士、理学療法士が連携して患者さんに日々当たっています。

辻町若狭クリニック二階に日本臨床美術協会沖縄支部開設

去る二月十四日に臨床美術の講演会と紹介が行われました。それを主催しました日本臨床美術協会の沖縄支部が辻町若狭クリニック二階に開設されました。協会としては第一号の支部になるそうです。

今後はディケアの場で臨床美術も実践されることになりました。また、臨床美術士5級取得講座も五月下旬から開講される予定です。沖縄事務局には臨床美術士の保坂遊氏が常駐するそうです。

連絡先 電話&ファクシミリ
〇九八—八六四—一二四
時間 十時〜十七時ごろまで
日・祝祭日休み

◆臨床美術とは？
美術療法における臨床美術とは、脳活性化を促す独自のカリキュラムにそって、絵画・彫刻・陶芸などを楽しみながら痴呆の症状を治療改善していく方法です。

美術療法を受けることで脳のニューロンが活性化し、日常動作行動が向上することが確認されています。

うまいへたにとらわれず、作品を制作する過程を大切にすることで、個性豊かな作品が生まれます。



あの店 この店

旬のお魚と野菜がうまい！
泡盛と海産物の店「ばやお」

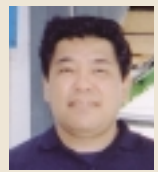


泡盛と海産物の店「ばやお」
■栄町市場内 098-885-6446
17時～24時まで 1・3・5の日曜休み

市場内にオープンして十二年。近くにあるうりずんとは姉妹店だ。会社の帰りに寄ってくれるサラリーマンの方が結構多い。他の店にないオリジナルメニューが多く、旬のお魚や野菜を使った料理は好評だ。お薦めは、シーフードサラダ・ヒマヤチ・ピザの三点セットがうまい。また、オリジナルカクテルもあり、充実している。もちろん泡盛は各銘柄さらに古酒の十年ものなどもある。

席は一階三十席、二階三十席とあって、二階は宴会が可能なスペースになっている。いつもいっぱいなので大勢で行く時は予約した方がいい。

大道さんぽぽぽぽ



大道子ども会 真和志中学校区
事務局長 伊良波 進さん

大道子ども会はメンバーは保育園児から中学生まで約四十人います。二〇〇一年に子ども会ができました。地域のつながりを子どもの頃から養っておくと同時に将来の青年会員を養成するところでもあると思っています。子どもの頃から活動をやっておくと、大きくなっても自然に活動ができ、仲間づくり・地域づくりもしていこうということのできたんです。

主な活動は、月一回の地域清掃や不定期ですが地域のエイサーなどへの参加です。そのために週に一回はエイサーの練習を大道小学校のグラ

ーの練習を大道小学校のグラ

ンドで行っています。学校や地域のイベントなどによく呼ばれるんですよ、それでいつ呼ばれても出られるように練習をしているんです。

グリーン作戦（清掃活動）が認められて、日本生命からパーランクーを寄付してもらい、それから衣装は大道中央病院からの寄付です。それまでは衣装もなく、パーランクーもないのでベニヤ板で代用していたんです。その後、二〇〇二夏まつり一万人エイサーで第二回ジュニアエイサーコンテストで審査員特別賞を受賞しました。

実績と伝統がないと出場できない全島エイサー大会に十年後くらいには出られようになりたいな」とみんな話しています。いま、地謡を生で演奏できるようにと、私が古典音楽と民謡を稽古しています。

三心会 だより

其の二

去る二月二十八日金曜日に三心会勉強会が栄養指導ラウンドで行いました。参加者は四十四人、当医院からは小宮副院長、泉川婦長、与那領事務長、栄養士・大城、山城、知花、事務局の南の七人でした。

食事の後はQ & A方式で行った



勉強会当日のメニュー



ところ、積極的な質問などが飛び出し、盛り上った勉強会となりました。また、食事の時に栄養士に手伝ってもらい、カロリー計算を自分にあつたご飯の量を、自分で盛ったこともよかったです。



- ① 大道中央病院
那覇市大道127番地 TEL(098)886-0007
- ② 大道中央リハビリテーション病院
那覇市安里1丁目468-59 TEL(098)869-0005
- ③ 介護老人保健施設 やすらぎの里
那覇市安里1丁目468-59 TEL(098)869-0030
- ④ 在宅介護総合ケアセンター陽心会
那覇市安里381-1 TEL(098)885-0030
- ⑤ 辻町若狭クリニック
那覇市若狭3丁目5番地17 TEL(098)869-6122
- ⑥ 那覇市在宅介護支援センター若狭
那覇市若狭3丁目5番地17 TEL(098)863-1165
- ⑦ デイサービスセンター三原
那覇市三原1丁目31番20号 TEL(098)840-0051
- ⑧ 天久りうぼう（医療福祉相談センター）
那覇市おもろまち1-2-1 TEL(098)862-0150
- ⑨ たかま〜みの家
那覇市安里3-1-47 TEL(098)941-0080

